

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 5 日現在

機関番号：32409

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2013

課題番号：24890223

研究課題名(和文)再発・進行がん患者の精神的健康状態の改善を目的とした治療法の開発

研究課題名(英文)Development of treatment methods for improving the psychological health of patients with recurrent and advanced cancer

研究代表者

石田 真弓(Ishida, Mayumi)

埼玉医科大学・医学部・助教

研究者番号：80636465

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円、(間接経費) 690,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では精神的健康状態の改善を目的とした治療法の開発として、再発・進行がん患者を対象としたニーズ、精神的問題、参加状況の調査・分析を後方視的に実施し、ニーズと現状に即した治療に必要な要素を検討した。結果として、再発・進行がん患者のみを対象とし、がん種を限定しない、集団精神療法の形式、月1回実施の単回プログラム構成の4つの点を重視した、臨床実施可能性の高い治療プログラムを開発した。

研究成果の概要(英文)：With the aim of developing treatment methods to improve the psychological health of patients with recurrent and advanced cancer, the present study conducted retrospective surveys and analyses of their 1) needs, 2) psychological problems, and 3) status of their participation in group therapies to identify elements required to address the needs and current situation. The developed therapeutic program was feasible in clinical settings, and it involves: 1) only patients with recurrent and advanced cancer, 2) covers all types of cancer, 3) is based on psychotherapy, and 4) can be implemented in a single monthly session.

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：公衆衛生学・健康科学

キーワード：再発がん 進行がん 集団精神療法 治療プログラム

1. 研究開始当初の背景

がんは昭和 56 年以降死因順位第 1 位であり、その数は年々増加している。がん患者では、その治療過程で約 50% に適応障害やうつ病などの精神医学的診断がつくことが明らかにされている。さらに、がん患者の 50~60% は再発し、進行、死の転帰をたどるため、その「再発・進行」がもたらす精神的なストレスは初発時よりも非常に大きい。そこで、埼玉医科大学国際医療センター包括的がんセンターでは、2007 年 4 月から精神腫瘍科を設置し、がん患者の精神面の健康に対し、精神・心理学的治療を行っている。

精神腫瘍科の受診患者のうち、再発・進行がん患者では、同様の他患者の情報やその共有を求めることがしばしばみとめられた。さらに注目すべき点として、再発・進行がん患者が他患者との間に求めたものは「同じがん種であること」ではなく、「同じ再発・進行がん患者であること」であった。

再発・進行がん患者への早期からの治療介入は患者の生活の質(QOL)を向上させることから、精神腫瘍科では、このような再発・進行がん患者を対象に、集団の形式を用い、患者と精神科医・臨床心理士が同席するグループセラピーを希望者に実施している。このように参加者のがん種を問わないグループセラピーの実施は、臨床的にその実施可能性が高く、頻度の少ないがん患者も参加が可能なたため、患者にとっては非常に有益である。

2. 研究の目的

がん患者にとって「再発・進行」は破局的な心理的打撃となり、精神的健康状態の悪化につながる可能性がある。全身状態の確実な悪化が予測される中、精神状態の維持・改善を目的とした治療法の確立と普及は重要な課題である。よって、本研究では根治の見込めない再発・進行がん患者に焦点を当て、その精神的健康状態の改善に寄与する治療

法の開発を行うことを研究目的とした。

3. 研究の方法

(1) ニーズの検討

研究 1 として、グループセラピーに参加した再発・進行がん患者の診療録調査を実施した。これまでに実施されたグループセラピーに参加した再発・進行がん患者の診療録を用い、その臨床所見や話された内容などを分析し、グループセラピーに必要な因子を抽出した。研究 2 として、再発・進行がん患者としてグループセラピーに参加した患者でフォーカスグループを実施し、グループセラピーの良かった点、改良すべき点などについてディスカッションを行い、必要な因子について検討した。

上記、研究 1、研究 2 の結果をもとに、プログラム作成を行った。

(2) 臨床適用性の検討

研究 3 として、プログラムの妥当性・臨床適用性の検討について検討するため、作成したプログラムの妥当性・臨床適用性に関し、医療従事者に対してヒアリング調査を実施した。

4. 研究成果

(1) ニーズの検討

集団精神療法へのニーズを検討し、下記が集団精神療法に必要な因子として考えられた。がん患者のがん種を問わず参加可能であること、5-6 人程度での開催、月 1 回の実施頻度、プログラム化された内容、参加希望を重視したリクルート、医学的知識の提供、心理教育。なお、医学的知識・心理教育の一環として、パニック症状や過呼吸に対し、知識と対処方法をあらかじめ共有することが有益と考えられたため、治療に役立つリーフレットを作成して患者に配布した。

(2) 臨床適用性の検討

本プログラムの臨床適用性を検討するため、集団精神療法への参加状況について検討した。

出席状況

各参加者における、初回から最後の参加までの出席状況について分析を行った。月1回のセッションを組み合わせた3ヵ月プログラム、6ヵ月プログラムを想定し、出席状況と合わせて分析したところ、3ヵ月プログラムに全て参加できた患者は59%、6ヵ月プログラムでは20%であった。この結果から、複数回のセッションを組み合わせたプログラムは再発・進行がん患者に対する集団精神療法として、臨床適用性が高くないことが示唆された。

参加継続困難となる理由

研究期間内の参加者25名を対象とした分析を行った結果、65%が体調不良（入院を含む）、25%が治療（化学療法、放射線療法など）のために参加継続が困難となった背景が明らかになった。この結果から、再発・進行がん患者においては治療や体調を考慮したプログラムが重要であることが示唆された。

まとめ

上記研究成果により、再発・進行がん患者のみを対象とし、がん種を限定しない、集団精神療法の形式、月1回実施の単回プログラム構成の4つの点を重視した、臨床実施可能性の高い治療プログラムを開発した。

本治療法は国内外の既存の治療法を適用させたものではなく、患者のニーズや状況に沿った内容であって新規性が高く、実現可能性の高い治療プログラムといえる。現在、本プログラムを用いた症例を追加し、改善点や実施法について発展させた研究を遂行中である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線）

〔雑誌論文〕(計 1 件)

大西秀樹 & 石田真弓 (2012). 包括的がんセンターにおける精神腫瘍科の役割. 埼玉医科大学雑誌, 39(1), 93-96. 査読なし
http://www.saitama-med.ac.jp/jsms/vol39/01/jsms39_093_096.pdf

〔学会発表〕(計 2 件)

Ishida M, Toyama H, Kawada S, Onishi H. Group Psychotherapy For Patients With Advanced Or Recurrent Cancer: Preliminary Study On Their Participative Condition. 11th American Psychosocial Oncology Society, Tampa, USA, 14 February 2014,
Ishida M, Onishi H, Kawada S, Toyama H, Uchitomi Y. Group psychotherapy for patients with advanced or recurrent cancer: Preliminary study. International College of Psychosomatic Medicine (ICPM), 22nd World Congress on Psychosomatic Medicine, Lisbon, Portugal, 14 September 2013.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

石田 真弓 (ISHIDA, Mayumi)

埼玉医科大学・医学部・助教

研究者番号：80636465

(2) 研究分担者 該当なし

()

研究者番号：

(3) 連携研究者 該当なし

()

研究者番号：